

となりのおじいさん

小 二

わたしの家のとなりには、おじいさんがすんでいます。おじいさんは、いつもはたけしごとをしながら、小学生に話しかけてくれます。わたしも、学校であつたことや、虫の話をよくしていました。わたしは、おじいさんのことが大すきで、おじいさんとお話するのをいつも楽しみにしていました。

ところがある日、わたしがい

つものように、
「おはよう。」
と言つても、おじいさんは、こたえてくれませんでした。おじいさんの耳が聞こえにくくなつてしまつていたので。それから、いつあいさつしても、「なんだい。おじいさんは、よく聞こえないんだよ。」
ということばがかえってくるだけになつてしまいました。今までのように会話ができなくなつて、わたしはとてもかなしい気もちになりました。かなしかつたり、あきらめたりする気

もちが、わたしの中で大きくな
っていきました。

どうすれば今までのような
会話ができるようになるのか、
わたしは思いつかなかつたの
で、お母さんにそうだんしてみ
ました。すると、お母さんは、
「耳元で話してみたらどう。」
と、教えてくれました。そこで、
つぎの日、おじいさんの耳元で
話してみました。すると、おじ
いさんはにっこりして、
「そうかあ。」
と、今までのようにうれしそう
にへんじをしてくれました。そ

れからは、大きな声で話したり、
手を大きくうごかすジェスチ
ャーをつかったりすること、
つたえたいことがつたえられ
るようになりました。

このせかいには、耳が聞こえ
にくい人、話が上手にできない
人など、いろいろの人がくらし
ています。でも、少しくふうを
すること、いろいろの人と、
気もちが通じ合えることが分
かりました。これからも、わた
しはたくさんの人と友だちに
なれるように、いろいろなくふ
うをしていきたいです。